



大阪天満宮社報 第68号

てんまてんじん



涼風進上

平成二十七年 盛夏

表紙解説

太鼓中「烏扇」

2 頁

大阪天満宮スカウト五十周年

3 頁

カザフスタン

世界伝統宗教指導者会議の報告

4 頁

御迎え人形 レプリカ

6 頁

さざれ石の奉納

7 頁

大阪天満宮の彫刻と名彫物師

12 頁

太鼓中「鳥扇」の由来

今回の表紙は「太鼓中」の雄姿です。現在、約三〇を数える講社のかでも、太鼓中は最大の講員数を誇ります。そして、江戸時代の初期に遡る古い伝承を伝えますが、なかで「太鼓」と「鳥扇」の伝承は興味深いものです。

「太鼓」の伝承とは、太鼓中が打つ太鼓は、もともとは豊臣秀吉から拝領した大坂城の陣太鼓だったというものです。現在は、その伝承の太鼓は大阪歴史博物館に寄託されています。

今回は、もう一つの「鳥扇」の伝承をご紹介します。

江戸時代の初め、大坂城内の宝蔵に納めていた「余納金一二万両（二〇万両ともいう）」と「千羽鳥の銘刀」が行方不明になりました。「余納金」とは、軍用金のことで、取調べを命じられた稻葉対馬守は、家中の三六名の忠臣と協議し、大阪天満宮に日参して祈願したところ、夢の中で次の託宣があつたといいます。一、余納金は権現社を奉建すれば戻つてくる。

この「千羽鳥の銘刀」については、次のような逸話も伝えられます。大盜賊の石川五右衛門が大坂城に忍び込み、この銘刀を盗もうとしたが、それが本物か否かを確かめるため刀身を見ようと、鯉口を切った（左手親指で鍔を押した）ところ、千羽鳥の鳴き声が発せられたため、捕縛されたといいます。

ところで、大坂城の「宝蔵破り」伝承についてはヒントとなつた史実があります。大坂城の金蔵は江戸時代に二度も破られているのです。一度目は享保一五年（一七三〇）に御

朝廷において、豊臣・大坂城の陣太鼓を打ち、徳川・大坂城にゆかりの扇を翻して、天神祭に奉仕していたところ、香炉が鳴つて捕らえられたところです。徳川の世にあつて豊臣鍋は、先の伝承もこの事件にヒントを得て、時代を遡らせて組み立てられました。

その意味では、石川五右衛門捕縛の逸話も、五右衛門が秀吉を暗殺するため、その寝室に忍び込んだところ、香炉が鳴つて捕らえられたところです。徳川の世にあつて豊臣鍋は、先の伝承もこの事件にヒントを得て、時代を遡らせて組み立てられました。

その習俗を踏まえた伝承かと思われます。

そして大切なのは、江戸幕府の施政下において、豊臣・大坂城の陣太鼓を打ち、徳川・大坂城にゆかりの扇を翻して、天神祭に奉仕していました。一般的に、カラス扇といえば、これまで扇ぐと、五穀豊穣・悪疫退散の意味を持つといわれていますから、扇を貫く知恵たつたようにも思えます。

たことと、櫓の上で鳥が舞つたことを示すデザインなのです。

一般的に、カラス扇といえば、こ

れで扇ぐと、五穀豊穣・悪疫退散の意味を持つといわれていますから、

扇を貫く知恵たつたようにも思えます。



●「日の出鳥」と「舞い鳥」

ところで、現在の太鼓中が使用している「鳥扇」、表に「日の出鳥」、裏に「舞い鳥」を配しています。これは右の天満宮の託宣を受けて、翌日の日に出前から一番鳥を待つ

天満宮スカウト 五十周年式典



五月三十日、天満宮会館孔雀の間十八団とガールスカウト大阪府第八十一団の総称です。当日は御本殿にて、大阪天満宮スカウト発団五十周年記念式典が執り行われました。大阪天満宮スカウトとは、当宮を母体とする、ボーライスクアウト大阪第九十八団とガールスカウト大阪府第八十一団の総称です。撮影を行いました。

まず式典では、両団委員長を代表し、ボーアス力ウト大阪第九十八団委員長である当宮の寺井種治権宮司が挨拶し、ご来賓を代表してボイスカウトなにわ地区地区協議会長伊東徹一様、ガ

◆ 記念奉納

その後、懇親会では寺井種伯宮司が乾杯の発声を行い、旧職員で団委員であつた盛岡八幡宮藤原隆磨宮司、道明寺天満宮南坊城充興名譽宮司、中川計夫元委員などの昔を知る方々にコメントを頂き、昔話にも花が咲いて、和やかな宴となりました。この他、総勢百四十四名のご参加を頂き、五十年の厚みを感じる盛大な式典となりました。

去る四月十二日、五十周年記念として表大門の西に掲示板を一基奉納し、

御本殿にてスカウト達の

第一回隊集会を行い、スカウト九名と共に奉納式が執り行なわれました。

式典ではこの掲示板奉納に対する奉納受納證を拝受致しました。

◆ あゆみ

天満宮スカウトの結成などを記録した『思い出すに』はや一千年には、旧職員佐藤久氏の言葉として次のように書かれています。

当団が正式に初団しましたのは、昭和四十年五月十六日ですが、昭和三十八年の暮れ、大阪天満ライオンズクラブの奉仕活動の一環として、殊に青少年の善導育成を目的に、地元大阪八十一団はこの七年後の昭和四十七年に、当時の宮司夫人小林初江様が団委員を、初代隊長を田村充子氏が務め、結成したとも見られます。

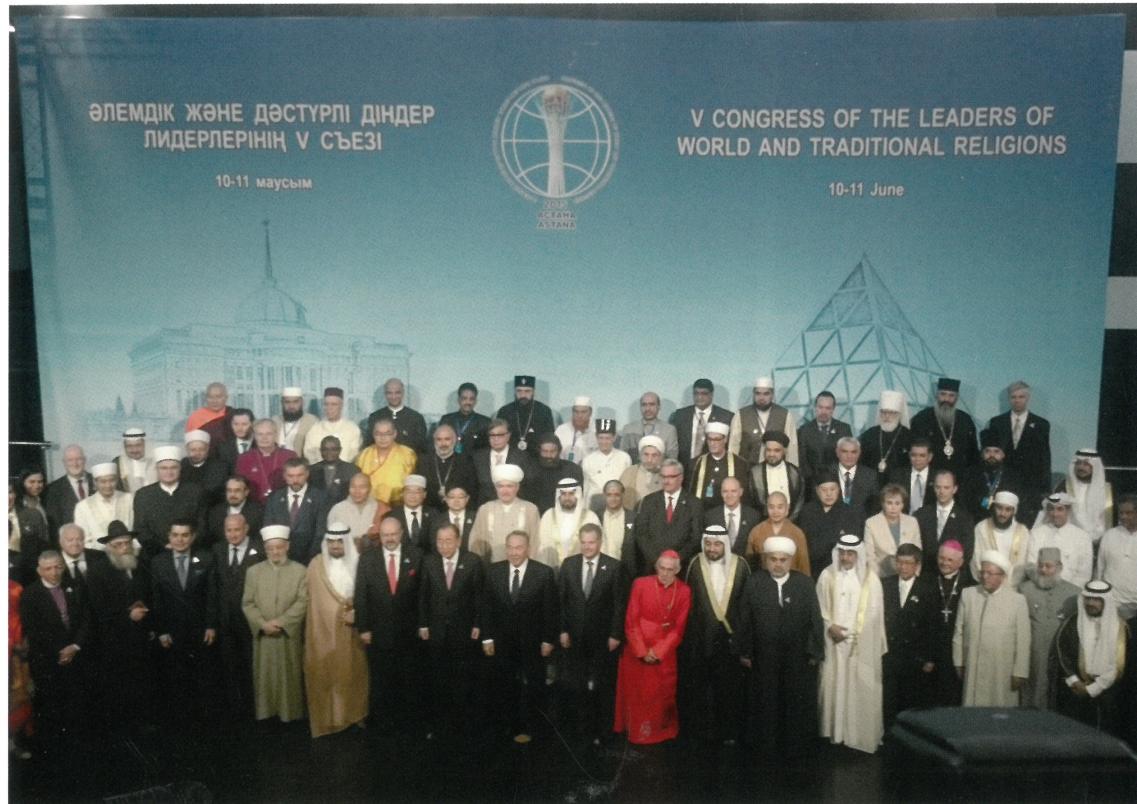
糸余曲折もありながら、多くの有能な人材を社会に輩出し、両団がとも歩みを進めて現在に至ります。

少子化が問題となつてゐる現代社会において、半世紀五十年という長い年月を両団が無事に活動させて頂いておりまして、まさに天神様のご加護と御支援下さいます皆様あつてのことと、今更ながら感謝に堪えないところであります。

今後もベーデン・パウエル卿のお教えを心とし、世に貢献できる団として次の百年を目指してまいりたいと思いますので、御支援御指導賜りますよう御願い申し上げます。

(事務局・権益宣 中西 佑)

- 3 -



終戦後、投降した日本軍捕虜の「シベリア抑留」は知られておりますが、実際には、現在でいう、モンゴル、中央アジア、コーカサスなどシベリアに限らず、ソビエト連邦の勢力圏各域に送り込まれており、このカザフスタンにも、六万人を越える抑留者が連行されました。冬には氷点下四十度を超える、餓鬼・極寒・重労働といわれる苛酷な環境の中、多くの抑留者が故郷から遠く離れた異国の地にて亡くなられました。

そのような状況においても、日本人は現地の方々が驚くほど真面目に

責任感を持って労働し、ダム建設、道路工事、建物建設などに従事されたそうです。

現在でもその当時の建物が各地に残っていますが、中でもウズベキスタン共和国の首都タシシュケントにある「ナヴォイ劇場」は、大地震によりタシシュケントにある建物のほとんどが崩壊する中、この劇場はそれまでと変わりなくその場に立っていました。

強制労働という立場にもかかわらず、日本人が責任感を持ち労働をさせていたことがうかがえます。

(権禰宜 大橋 弘邦)

去る六月十日、十一日の両日に、カザフスタン共和国の首都アスタナにあります「平和と調和の宮殿」において、「第五回世界伝統宗教指導者会議」が開催され、神社本庁常務理事を務めます当宮寺井宮司が、神社神道を代表し出席致しました。

この会議は、同共和国のナザルバエフ大統領の発意により、政府の主催にて、平成十五年より三年に一度開催されています。五回目となりますが、四十四カ国、百十二の宗教・組織が世界中より集まり、「平和と発展に関する政治と宗教の対話」が主題とされました。

世界伝統宗教指導者会議が今後更なる発展を遂げる上で核となる機関として、特に中心となる宗教者十四

名が携わり前回大会に設立された「宗教指導者評議会」が、開会式に先立ち開催されました。寺井宮司もその議会に出席し、本大会の議題などが協議されました。

その後、本大会の開会式では、ナ

ザルバエフ大統領が主催者挨拶を行い、また来賓として、潘基文国連事務総長、フィンランドのニーニスト大統領、二日目には、ヨルダンのアブドッラー二世国王も出席し挨拶を述べられました。

会議では両日、各宗教の代表者が提言を発表し、寺井宮司はその中で、国際社会が今後持続可能な開発を考える上において、「自然と共に生きる」という日本人の伝統的な価値観が注目されること、また平和と繁栄

が密接な関係にある中で忘れてはならない精神的側面を担うのは宗教者であることを述べました。

名が携わり前回大会に設立された

「宗教指導者評議会」が、開会式に

先立ち開催されました。寺井宮司も

その議会に出席し、本大会の議題な

どが協議されました。

その後、本大会の開会式では、ナ

ザルバエフ大統領が主催者挨拶を行

い、また来賓として、潘基文国連事務総長、フィンランドのニーニスト大統領、二日目には、ヨルダンのアブドッラー二世国王も出席し挨拶を述べられました。

会議では両日、各宗教の代表者が提言を発表し、寺井宮司はその中で、国際社会が今後持続可能な開発を考える上において、「自然と共に生きる」という日本人の伝統的な価値観が注目されること、また平和と繁栄

が密接な関係にある中で忘れてはな

らない精神的側面を担うのは宗教者であることを述べました。

名が携わり前回大会に設立された

「宗教指導者評議会」が、開会式に

先立ち開催されました。寺井宮司も

その議会に出席し、本大会の議題な

どが協議されました。

その後、本大会の開会式では、ナ

ザルバエフ大統領が主催者挨拶を行

い、また来賓として、潘基文国連事務総長、フィンランドのニーニスト大統領、二日目には、ヨルダンのアブドッラー二世国王も出席し挨拶を述べられました。

会議では両日、各宗教の代表者が提言を発表し、寺井宮司はその中で、国際社会が今後持続可能な開発を考える上において、「自然と共に生きる」という日本人の伝統的な価値観が注目されること、また平和と繁栄

が密接な関係にある中で忘れてはな

らない精神的側面を担うのは宗教者であることを述べました。

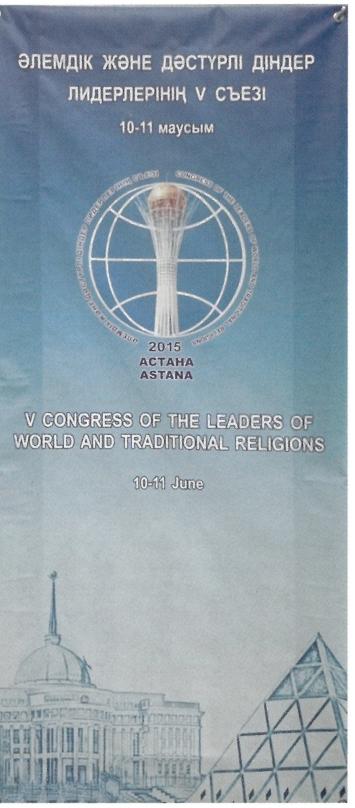
名が携わり前回大会に設立された

「宗教指導者評議会」が、開会式に

先立ち開催されました。寺井宮司も

その議会に出席し、本大会の議題な

どが協議されました。





鬼若丸



三番叟



酒田公時



関羽



木津勘助



安倍保名



素戔嗚尊



雀踊



鎮西八郎



豆藏



胡蝶舞



与勘平

御迎え人形レプリカ

「佐々木高綱」は
実は「真田幸村」

今年の御迎え
人形のレプリカ
は「真田幸村」
です。この人形
は、江戸時代に
は「佐々木高綱」
と呼ばれています。
した。それは、
大坂の陣を題材
とした芝居『近
江源氏先陣館』
の役名に由来し
ます。この芝居
は、大坂の陣を
テーマにしてい
ますが、江戸幕
府のもとでは、

それでも、その襦袢には真田家の
家紋「六文銭」を縫い付けて、幸村
であることを誇示していました。
幸村が戦死した大坂夏の陣から四
〇〇年の今年に謹製できましたこと
に、不思議なご縁を感じます。
去る平成十二年に始まりました御
迎え人形のレプリカ謹製も、十六年
目にあたる今年の真田幸村をもつて
完成いたしました。



御迎え人形 レプリカ 十六体 勢揃い

平成十四年の「菅原道真公千百年
大祭」を記念して、現存の御迎え人
形十六体をレプリカで親しんでいた
だこうと始めた企画でした。授与を
始めて以来、毎年に決まった箱番号
を求められる方もあり、誠に有り難
いことでございます。

つきましては、十六体を揃えてい
ただいた方には、御礼に歌川貞秀の
三枚続『浮世絵浪速天満祭』の複
製画を差し上げます。詳しくは、社
務所にお尋ねください



猩々



八幡太郎義家



羽柴秀吉

第五回 人形祭

合から秋思祭の献備装飾品である

「雛と水仙」「鹿と紅葉」の造花台

五月十七日に、関西節句人形工業協同組合が祭主となつて、今年で第五回目になる人形祭が執り行われました。

この神事は、日頃家庭に飾られたいた雛人形をはじめとする様々な人形がその役目を終えた時、感謝の誠意を捧げてお人形とお別れをしたい、という持ち主の思いから始められた神事です。

この神事は、日頃家庭に飾られていました。この造り物

は、和紙や綿などに岩絵の具を使つて彩色した珍しい細工品で、人形師

五回目になる人形祭が執り行われました。

この神事は、日頃家庭に飾られていました。この造り物

以後、月次連歌も昭和七年まで開かれていますが、それ以降は記録がありません。現在は、例年正月二日に、新年祈祷連歌として宮司以下神職が句を連ねて献進していますが、正式な連歌ではありません。今回の法楽連歌は、歴史的にみても大変有意義な連歌会でありますので、ここにご紹介いたします。

『大阪天満宮 法楽連歌』

御神幸や神靈移御も

肅肅と

ここは談林

青葉のたもと

さればこそ天下の

風も吹き寄せて

扇かざせし

武士の秋

澄みわたる月下の

橋を吟じ行く

さくら紅葉の

祇園新橋

早朝の辰巳

稻荷に手を合わせ

きぬぎぬなるも

影身添わせよ

あなたにはひと夜

なれどもわれひと世

山田 順子

寺井 稔伯

今枝 清實

高城 修三

城 貴代美

飛田 久子

廣 青隴

中條 晴之

奥山真理子

六月一日午後 当宮參集殿大広間

にて、高城修三連歌会の奉仕によつて約百十年ぶりに法楽連歌が開催されました。

古く文明十年（一四七八）の尋尊大僧正記には、当宮での法楽連歌が記録されています。正保四年（一六四七）には西山宗因を連歌所宗匠に迎えるなど、盛んに法楽連歌が催されてたのですが、戦乱の世を迎えてからは衰退期となり、それでも連歌の灯は消えることなく、明治三十五年の菅公一千年祭には法楽連が奉納されています。

寺井 稔伯

今枝 清實

高城 修三

城 貴代美

飛田 久子

廣 青隴

中條 晴之

奥山真理子

六月一日午後 当宮參集殿大広間

にて、高城修三連歌会の奉仕によつて約百十年ぶりに法楽連歌が開催されました。

古く文明十年（一四七八）の尋尊大僧正記には、当宮での法楽連歌が記録されています。正保四年（一六四七）には西山宗因を連歌所宗匠に迎えるなど、盛んに法楽連歌が催されてたのですが、戦乱の世を迎えてからは衰退期となり、それでも連歌の灯は消えることなく、明治三十五年の菅公一千年祭には法楽連が奉納されています。

寺井 稔伯

今枝 清實

高城 修三

城 貴代美

飛田 久子

廣 青隴

中條 晴之

奥山真理子

六月一日午後 当宮參集殿大広間

にて、高城修三連歌会の奉仕によつて約百十年ぶりに法楽連歌が開催されました。

古く文明十年（一四七八）の尋尊大僧正記には、当宮での法楽連歌が記録されています。正保四年（一六四七）には西山宗因を連歌所宗匠に迎えるなど、盛んに法楽連歌が催されてたのですが、戦乱の世を迎えてからは衰退期となり、それでも連歌の灯は消えることなく、明治三十五年の菅公一千年祭には法楽連が奉納されています。

寺井 稔伯

今枝 清實

高城 修三

城 貴代美

飛田 久子

廣 青隴

中條 晴之

奥山真理子

六月一日午後 当宮參集殿大広間

にて、高城修三連歌会の奉仕によつて約百十年ぶりに法楽連歌が開催されました。

古く文明十年（一四七八）の尋尊大僧正記には、当宮での法楽連歌が記録されています。正保四年（一六四七）には西山宗因を連歌所宗匠に迎えるなど、盛んに法楽連歌が催されてたのですが、戦乱の世を迎えてからは衰退期となり、それでも連歌の灯は消えることなく、明治三十五年の菅公一千年祭には法楽連が奉納されています。

寺井 稔伯

今枝 清實

高城 修三

城 貴代美

飛田 久子

廣 青隴

中條 晴之

奥山真理子

六月一日午後 当宮參集殿大広間

にて、高城修三連歌会の奉仕によつて約百十年ぶりに法楽連歌が開催されました。

古く文明十年（一四七八）の尋尊大僧正記には、当宮での法楽連歌が記録されています。正保四年（一六四七）には西山宗因を連歌所宗匠に迎えるなど、盛んに法楽連歌が催されてたのですが、戦乱の世を迎えてからは衰退期となり、それでも連歌の灯は消えることなく、明治三十五年の菅公一千年祭には法楽連が奉納されています。

寺井 稔伯

今枝 清實

高城 修三

城 貴代美

飛田 久子

廣 青隴

中條 晴之

奥山真理子

六月一日午後 当宮參集殿大広間

にて、高城修三連歌会の奉仕によつて約百十年ぶりに法楽連歌が開催されました。

古く文明十年（一四七八）の尋尊大僧正記には、当宮での法楽連歌が記録されています。正保四年（一六四七）には西山宗因を連歌所宗匠に迎えるなど、盛んに法楽連歌が催されてたのですが、戦乱の世を迎えてからは衰退期となり、それでも連歌の灯は消えることなく、明治三十五年の菅公一千年祭には法楽連が奉納されています。

寺井 稔伯

今枝 清實

高城 修三

城 貴代美

飛田 久子

廣 青隴

中條 晴之

奥山真理子

六月一日午後 当宮參集殿大広間

にて、高城修三連歌会の奉仕によつて約百十年ぶりに法楽連歌が開催されました。

古く文明十年（一四七八）の尋尊大僧正記には、当宮での法楽連歌が記録されています。正保四年（一六四七）には西山宗因を連歌所宗匠に迎えるなど、盛んに法楽連歌が催されてたのですが、戦乱の世を迎えてからは衰退期となり、それでも連歌の灯は消えることなく、明治三十五年の菅公一千年祭には法楽連が奉納されています。

寺井 稔伯

今枝 清實

高城 修三

城 貴代美

飛田 久子

廣 青隴

中條 晴之

奥山真理子

六月一日午後 当宮參集殿大広間

にて、高城修三連歌会の奉仕によつて約百十年ぶりに法楽連歌が開催されました。

古く文明十年（一四七八）の尋尊大僧正記には、当宮での法楽連歌が記録されています。正保四年（一六四七）には西山宗因を連歌所宗匠に迎えるなど、盛んに法楽連歌が催されてたのですが、戦乱の世を迎えてからは衰退期となり、それでも連歌の灯は消えることなく、明治三十五年の菅公一千年祭には法楽連が奉納されています。

寺井 稔伯

今枝 清實

高城 修三

城 貴代美

飛田 久子

廣 青隴

中條 晴之

奥山真理子

六月一日午後 当宮參集殿大広間

にて、高城修三連歌会の奉仕によつて約百十年ぶりに法楽連歌が開催されました。

古く文明十年（一四七八）の尋尊大僧正記には、当宮での法楽連歌が記録されています。正保四年（一六四七）には西山宗因を連歌所宗匠に迎えるなど、盛んに法楽連歌が催されてたのですが、戦乱の世を迎えてからは衰退期となり、それでも連歌の灯は消えることなく、明治三十五年の菅公一千年祭には法楽連が奉納されています。

寺井 稔伯

今枝 清實

高城 修三

城 貴代美

飛田 久子

廣 青隴

中條 晴之

奥山真理子

六月一日午後 当宮參集殿大広間

細石(さざれいし)奉納



六月二十五日、境内駐車場の東側に国歌「君が代」にも歌われている細石が、歌碑とともに奉納されました。これは崇敬者である泰庵の代表である植松規浩氏の奉納によるもので、岐阜県揖斐川町で産出したものです。

当日は関係者一三〇名の参列を得て、盛大に奉納除幕式が執行されました。

午前十時から御本殿において奉納奉告祭が斎行され、宮司も参列して受納證書をお渡しました。引き続いて一同が細石の前に移動して、まずは奉納主と

宮司によって除幕がおこなわれ、神職によって清祓之儀が奉仕されました。

そしてソプラノ歌手の清水美也子さんの先導によって国家「君が代」が斎唱され厳肅にかつ賑々しく披露されました。この後、記念写真を撮影し、続いて天満宮会館において奉

納記念の講演会が開催されました。

この講演は敬帝リーナ武山先生によるご講演で「兄 武山泰雄を語る」と題する講演でした。

日本人なら誰しも知っている細石なのですが、さて実物を見たことが

あるかといえばそ

う多くはないと思われます。国旗国歌に関する法律は

平成十一年に施行されました。が、その意義や歴史についてかならずしも

正確に普及、伝承されているとはいえない

（訓読）蟹行読むに疎く研尋を惰たり、

鳥迹は千古の心を棚に堆む。手に重き辞書は今や啓かず、塵編傾倒して清音に愧す。

※作者は九十歳、詠物体として、起承転結に題を詠み込むという難しい

題なのですが見事としか言いようが

ないお作です。

二月席題

鵬城 北野 修司 得真韻

蟹行疎讀惰研尋

鳥迹堆棚千古心

重手辭書今不啓

塵編傾倒愧清音

（訓読）

蟹行

読

むに

疎

く

研

尋

を

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

り

研

惰

</

大阪天満宮の彫刻と 大坂の名彫物師 相野藤七

村岡 真一（兵庫地車研究会）

大阪天満宮の本社をはじめ境内の建物に施された彫刻については、これまであまり語られることがなかつた。今回は天満宮の彫物について触れてみたいと思つ。

◆御座船「天神丸」

江戸時代の大坂の堀川や港湾で船作業を行つた上荷船・茶船仲間が所有していた山車形式の飾り船「天神丸」が、天満宮に保存されており、毎年四月から八月まで「大阪市立住まいのミュージアム」（北区天神橋六丁目）で展示されている。この天神丸は、元禄期（一六八八～一七〇四）の作と伝えられ、天神祭には飾り立てて曳き出していたが、寛政四年（一七九二）に起きた天満の大火の折に類焼、損壊した。

大火から五十九年を経た嘉永四年（一八五二）、天神丸が世に埋もれることを歎いた茶船惣代親仁分平野屋五兵衛は、上荷茶船仲間を奨励し、篤志家を募り大修復すること

にした。焼けてしまつた部分の彫物をおぎなつた天神丸は、翌五年の御神退九百五十年祭に、氏地を曳航することができた。なお、修復には御殿細工人倉橋屋平右衛門がその任に当たつたと伝えられている（「天神丸」絵馬、大阪天満宮蔵）。

天神丸は見事な彫物で飾られてゐるが、誰が彫つたのか。その手がかりでもある造立当初（元禄期）の墨書きが、船体後部の部材にある。その人物は「中川利兵衛」。中川利兵衛は大坂の地誌『難波丸網目』（延享版・安永版）にも「堂社彫物師 安土町三休橋西へ入 中川利兵衛」とあり、代々その名前を継承しているが、嘉永期の天神丸大修復には携わつていなかつたと思われる。

天神丸の彫物の特徴から、嘉永期の大修復に関わつた彫物師は一体誰なのか。どの部分が中川利兵衛（元禄期）の彫りで、どの部分がもう一人の彫物師の作品であるのか、ずつと気にかかつてゐた。

◆大坂の名彫物師 相野藤七

相野藤七は目に触れるような箇所にはほとんど名前を入れず、それまで相野藤七の彫物がよくわからなかつたが、これを機におもしろいよう

に次々と藤七の彫物が判明してきた。天満宮の文化研究所によると、天満宮と永井神社に同じ相野藤七の彫物が現存するのには、両社に偶然とはいえないつながりがあつたということである。

宝暦年間に、高槻藩家老三島勘左衛門の女玉江が当宮宮司寺井家の九代保氏方へ嫁いでいる。寺井家十代種信は保氏の養子であり、高槻藩

に何度も天神丸の彫物の写真を見直し、現物も見て、造立当時（元禄期）の中川利兵衛の彫物を求めて、播州、丹波、和歌山方面などに足を運び、宝永～安政年間頃の間の何代かにわたる中川利兵衛の彫物は確認することができた。しかし、元禄期まで遡ることができた。なお、修復には御殿細工人倉橋屋平右衛門がその任に在住）から教示を受け、いても



永井神社 唐門木鼻の獅子

天神丸の木鼻の獅子（うしろは摸）

相野藤七の他の社寺彫刻

四天王寺（大阪市天王寺区）

本坊の唐門

（龍・獅子）

来迎寺（松原市）

山門（天保十四年・一八四三）

（龍・虎）

本堂

（亀・摸木鼻／内部獅子群遊

永井神社（高槻市）

嘉永元年（一八四八）

（獅子・龍・虎・獅子など）

星田妙見宮（交野市）

（摸など）

その他

地重彫刻

今福西の町・同先代北の町

（大阪市城東区）

下嶋（守口市）

（元は天満宮氏子地の地車と考へられる）

川面（吹田市）

北の町（大東市北条地区）

新田西・同東（大東市）

下野（大東市三箇）

川面東（宝塚市）

空区（神戸市東灘区）

名張本町（名張市）

その他

三島図書の子である。当然嘉永元年に竣工した永井神社の唐門の彫師相野藤七を紹介、推薦したのは、天満宮の寺井家であったと考えられる。

◆三ツ屋根地車と天満宮の彫物

天満宮に現存する唯一の地車、天満青物市場三ツ屋根地車の彫物も相野藤七作と私は確信している。三ツ屋根地車および天神丸は嘉永五年（一八五二）に完成しているので、奇しくも同時期に天満宮にかかる地車と天神丸を手掛けていたのである。相野藤七の天満宮との関わりはこれだけではない。

天満宮の本社彫刻もずっと彫師が不明であったが、拝殿正面の虹梁上

木鼻、手水舎上部の龜等も相野藤七作であろう。

本社の天保十四年（一八四三）上棟時の棟札には相野藤七の名前は見られないが、他の彫物と比べてみても間違いない相野藤七は天



三ツ屋根地車（大阪天満宮蔵、写真「大阪のだんじり」より）



大阪天満宮 拝殿木鼻の獅子



大阪天満宮 末社老松社木鼻と海老虹梁

一般的には木彫師はほとんど注目されてはいませんが、相野藤七は、下段にある大阪を代表するような社寺の彫刻、および地車彫刻を成し、近世大坂の最高峰ともいえる名工であつたことは間違ひありません。

これを機に大阪天満宮に参拝された時は、あらたな目で天満宮の彫刻を見ていただきたいと思います。新しい発見や楽しみがまた一つ加われば幸いです。

今福西の町・同先代北の町

（大阪市城東区）

下嶋（守口市）

（元は天満宮氏子地の地車と考へられる）

川面（吹田市）

北の町（大東市北条地区）

新田西・同東（大東市）

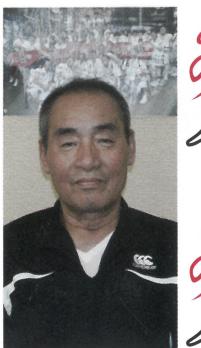
下野（大東市三箇）

川面東（宝塚市）

空区（神戸市東灘区）

名張本町（名張市）

その他



小林 克次さん

頭に興丁船が市場前まで漕ぎ着け、
担ぎ手達を迎えていたそうです。

乗り込みの際には、乗り場横で西
瓜市の売り子たちが、わざと西瓜を

地に落とし、笑いながら「売りもん
ならん！」とその西瓜を担ぎ手たち
に手渡してくれ、興丁船上で西瓜を

頬張りながら船路を進んだそうです。

今回は玉神輿講の小林克次（かつ
じ）さん（六七）をご紹介致します。

小林さんは、大阪市中央卸売市場
鮮魚仲買業、丸克水産（株）を営む

傍ら、大阪天満宮玉神輿講の副講元
をお務めいただいております。

玉神輿は、戦前には旧江之子島町
（現・西区本田）でお守りしていまし
たが、昭和二四年から現在まで大阪

市中央卸売市場でお守りしています。
小林さんは、昭和三六年、一三歳

で中央市場の丁稚となり、同年に隣
店舗の番頭さんに連れられて、初め
て神輿を担いだそうです。

現在は、市場が一体となり一四〇
～五〇名程で神輿を担ぎますが、当
時は市場内の青果・鮮魚・漬仲・付
属商店の各部門、総勢三〇〇名を越
える担ぎ手が集結し、各部門ごとに
神輿を担ぐことが慣例だったといい
ます。

また、本宮には、どんどん船を先
に手渡してくれ、興丁船上で西瓜を

頬張りながら船路を進んだそうです。

小林さんは「神輿を担ぎ始めて今
日まで五〇年以上経つけど、祭を樂
む伝統を残す使命を感じる。」と仰
ります。それぞれの伝統を重んじ、
大切に次代に継承する、そんな思い
を持った方々によつて天神祭は支えら
れていることを改めて教えて頂いた
気がします。



堀川小学校 生活学習

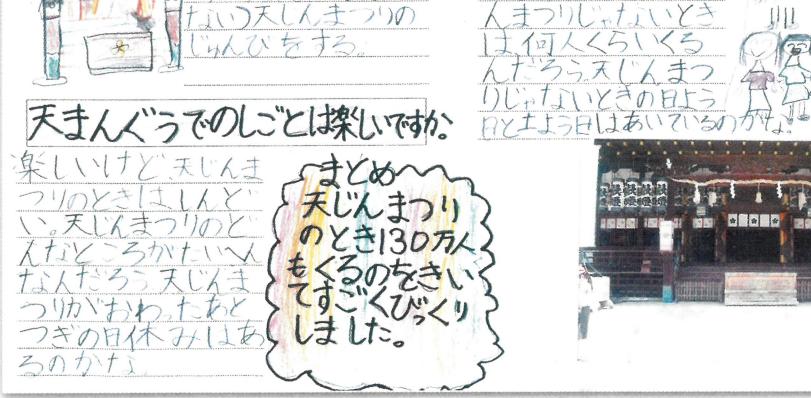
後日、学級発表会が行われたとい
うことで、その中から児童の代表で
ある「ひらいわ・ゆな」さんの作つ
た新聞を頂きましたので、紹介し
ましょ。

五月二十日、地元の堀川小学校二
年生の生活学習「町たんけん」とし
て、各十名の班が二班で来宮し、神
職に質問をして、地域のこ
とを勉強され
ました。

各班ごとに、最初の挨拶か
ら質問事項、終わりのお礼
の言葉まで周到な台本を事
前に作り、とて
ても効率よく
職に質問をして、地域のこ
とを勉強され
ました。

各班ごとに、最初の挨拶か
ら質問事項、終わりのお礼
の言葉まで周到な台本を事
前に作り、とて
ても効率よく
職に質問をして、地域のこ
とを勉強され
ました。

天まんぐうで「おじごとかあるんですね。
どうなさいましたか？」
とおじごとかあるんですね。
どうなさいましたか？



■新総代就任■

田井 敦（神鉢講 講長）



■人事任免■

『新任』

出仕 中山 慶太

出仕 巾井 敦

巫女 橋本 佳代

巫女 大川内 七海

帰幽報告

二十六年十二月二十四日
氏子総代 上野 誠三郎（享年九十三歳）

『退任』（三月三十一日付）

巫女 福島 開成山大神宮へ
出仕 福井 中道 夏海
兵庫 生田神社へ
柴田 瞳子 諒子
富岡 幹代 琴音



巫女 富岡 琴音

『転任』

巫女 柴田 瞳子 諒子
兵庫 生田神社へ
福井 中道 夏海
上山 裕 健史

巫女 柴田 瞳子 諒子
兵庫 生田神社へ
福井 中道 夏海
上山 裕 健史

巫女 柴田 瞳子 諒子
兵庫 生田神社へ
福井 中道 夏海
上山 裕 健史

大阪天満宮献詠 風月社 平成二十七年上半年期季歌

豊中 西岡 克啓

古民家の格子の奥にやはらかな
ボタン咲く見ゆ懷かし人かけ
大阪 金生 久夫

天満の宮居かしこみ献詠に
なくさめられつ幸を重ねる

ひたむきに咲きそふ色の紅の
寒椿あり胸にしみゐる

紅梅にうすき化粧をはくことく
春の淡雪かゝるしつけさ

山裾に茶摘機の音ひろかりて
風かくはしく告くる初夏

大阪 西脇 か津
堺 永田 民子
幹事 松村 曜一

朝またき孫あれしとの知らせきて
よろこひ急き春雪ふみゆく

大阪 大北 滋保
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

合格の掲示の前に小をとりす
小雪まひゐる遠きおもひて

東大阪 岩城 富子
大阪 中瀬 央子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

宿りてねむる庭の静けさ
石燈籠に春雪丸し

大阪 竹久 英子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

振袖に袴の乙女さゝめゆく
神垣の奥ひと花の寒椿

大阪 竹久 英子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

闇深みかかり灯ゆれるひろ庭の
誰か見すとも清らかに咲く

大阪 竹久 英子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

名残ゆき梅もほころぶ香くはしさ
うなし清き少女の茶摘いそしみつ

全にやさしくぶりかゝりくる
晴れのまなさしほゝえましくも

大阪 中瀬 央子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

霞深みかかり灯ゆれるひろ庭の
石燈籠に春雪丸し

大阪 竹久 英子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

名残ゆき梅もほころぶ香くはしさ
うなし清き少女の茶摘いそしみつ

全にやさしくぶりかゝりくる
晴れのまなさしほゝえましくも

大阪 中瀬 央子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

霞深みかかり灯ゆれるひろ庭の
石燈籠に春雪丸し

大阪 竹久 英子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

名残ゆき梅もほころぶ香くはしさ
うなし清き少女の茶摘いそしみつ

全にやさしくぶりかゝりくる
晴れのまなさしほゝえましくも

大阪 中瀬 央子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

霞深みかかり灯ゆれるひろ庭の
石燈籠に春雪丸し

大阪 竹久 英子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

ひらひらと風に舞ひ落つ寒椿
紅のしゆたん敷きて眠りぬ

豊中 西岡 克啓

古民家の格子の奥にやはらかな
ボタン咲く見ゆ懷かし人かけ

大阪 金生 久夫

天満の宮居かしこみ献詠に
なくさめられつ幸を重ねる

ひたむきに咲きそふ色の紅の
寒椿あり胸にしみゐる

紅梅にうすき化粧をはくことく
春の淡雪かゝるしつけさ

山裾に茶摘機の音ひろかりて
風かくはしく告くる初夏

大阪 西脇 か津
堺 永田 民子
幹事 松村 曜一

朝またき孫あれしとの知らせきて
よろこひ急き春雪ふみゆく

大阪 大北 滋保
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

合格の掲示の前に小をとりす
小雪まひゐる遠きおもひて

東大阪 岩城 富子
大阪 中瀬 央子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

宿りてねむる庭の静けさ
石燈籠に春雪丸し

大阪 竹久 英子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

振袖に袴の乙女さゝめゆく
神垣の奥ひと花の寒椿

大阪 竹久 英子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

名残ゆき梅もほころぶ香くはしさ
うなし清き少女の茶摘いそしみつ

全にやさしくぶりかゝりくる
晴れのまなさしほゝえましくも

大阪 中瀬 央子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

霞深みかかり灯ゆれるひろ庭の
石燈籠に春雪丸し

大阪 竹久 英子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

名残ゆき梅もほころぶ香くはしさ
うなし清き少女の茶摘いそしみつ

全にやさしくぶりかゝりくる
晴れのまなさしほゝえましくも

大阪 中瀬 央子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

霞深みかかり灯ゆれるひろ庭の
石燈籠に春雪丸し

大阪 竹久 英子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

名残ゆき梅もほころぶ香くはしさ
うなし清き少女の茶摘いそしみつ

全にやさしくぶりかゝりくる
晴れのまなさしほゝえましくも

大阪 中瀬 央子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

霞深みかかり灯ゆれるひろ庭の
石燈籠に春雪丸し

大阪 竹久 英子
堺 土田 喜久子
幹事 佐野 秀子
幹事 松村 曜一

靖國神社特別參拜旅行を終了

平成二十七年五月十二日(土)十三日
大阪府神社庁主催の靖国神社特別参
拝旅行が行われ、大阪府の神社関係
者、約四十名が参加しました。

本年は、大東亜戦争終結七十周年を迎えましたが、国家と国民を守る為に尊い命を亡くされた英靈に、慰靈と感謝の意を捧げる為、神社本庁でこの参拝運動を展開しています。

江戸時代の幕末から大東亜戦争の終焉に至る戦没者や軍事関係の資料が展示されておりました。

に、もし私がこの時代に生を受けて
いれば果たして搭乗できたのだろう

かと恐怖心に包まれたと同時に、如何に自分の日々の生活に、自分的人生に甘えているかを痛感致しました

英靈の遺書や遺誄、また御家族の書簡も数えきれないほどの展示でした。そこには、家族や同胞へ宛てた感謝の気持ちとそれを凌駕する祖国への愛が綴られていました。どの方も自身の最期に向きになり、恐怖を感じさせず祖国への神々しい未来を見据えているように感じました。自然と涙が頬を伝い、今まで体感したことの無い感情で溢れました。

てその後、宿泊する熱海後楽園ホテルにて懇親会がありましたが、その宴会では『乾杯』ではなく、英靈に『献杯』で開宴したのが印象的でした。この靖国神社特別参拝旅行は私にとってかけがえのない経験となり、今後の神明奉仕で崇敬者の方々、又



編集後記

平安朝以来の伝統を千年以上も
今年も天神祭の季節となりました。毎年行っている「天神祭記者発表会」でも、いつもの質問がありました。「今年の目玉は何ですか?」というものです。

肅々と受け継いでいる神事・祭礼について、「今年の日玉は?」と聞かれても答えようがないというのが本音です。

しかし、マスコミに関わる皆さ
んの立場にすれば、町おこしイベ
ントの報道と同じように、目新し
い「目玉」が必要なのでしょう。
私たちにすれば、激しく変化し
続ける現代社会において、「今年
もこれまで通りのお祭りが盛大に
行われます」ということこそ、二
ユースだと思うのですが。

大阪天満宮社報
てんまてんじん 第68号
平成27年7月20日印刷
平成27年7月25日発行
発行人 寺井種伯

発行所
〒 530-0041 大阪市北区天神橋2-1-1
TEL 06-6353-0020